© 2014 Kyoto University 湯川記念館史料室 京都大学基礎物理学研究所

女性の人

世界連邦運動

長に就任された 湯川 秀樹

「人類が平和に生きてゆくためには、いままでと全く違った考えをしなければならない。世界連邦は決して遠はないと思っている」湯川さんの眼鏡が光った。世界連邦運動がもうこの国際権力政治のなかで一体何を期待するのか、という声があるこんどの日本大会には他会の外国人役員からずいぶん手厳しいパンチを出されたのは事実。

湯川博士はしゃべる十五分間、八年に第一回大会の仕事でヨーロッパに滞在中、文三夫人（乳がん）の世界連邦建設同盟会長の"婦唱"で世界連邦の心を広げるような会合に顔を出したのがきっかけだという。日本大会を担当したナトリー者は「歴史のうえで人類の夢はつねに実現されてきたのではないか」と問いかけた。しかし世界連邦の夢は、普遍的な人類愛をテコとする同盟にしてはあまりにも大きく、またむずかしい運動であるまい。

「アルシチュフ・ソ連首相が私に会ってもよいといっている」とラリュー事務総長は語ったが、いずれにせよ、もはやイデオロギーの時代ではなく、人類は共存共栄の道を選んだ。とき国連を動かした世界連邦運動は、各国の外交政策に意思を反映させる意味で、世界連邦の基盤に立っていることはいえよう。

「当分は学生の気持。まだ人に何かがいわれること断わりきれない」と笑い自信を告白している湯川博士は、会員資格選挙に会員を引きたり「二年間に会員を引きたが、受けたのは驚くべきと思った。大会準備がわかってきたが、大会準備がなかなかうまくいかない。こんどはもっと有意な会員になろうと思う」と意欲をもらす。その点"お人好し"といわれる性格があるまい。

原子物理学者として高名な湯川博士のノーベル賞受賞以来、ネーム・バリューがものをいってパグウォッシュ会議や科学者原子力会議などに、核兵器廃絶運動や軍縮と平和の問題に、さらには大宇宙の謎。「軍縮はもちろん、世界の貧困や紛争のみなら世界連邦の運動につながってこなければならない」と強調するこの人、世界連邦運動の眼にもそれしシャッポを脱ぐにいえるかもしれない。「統一場の理論」で現実の世界連邦運動をどう発展させてゆくのかが、お手なる課題としていきたいものだ。五十六才。（O）